

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名(主)	少女の避難基地と夢を育てる事業
事業名(副) ※任意	立ち直りを支えるインフォーマルな社会資源をつくる

入力数 主 15 字 副 字

実行団体名	一般社団法人京都わかさねっと
資金分配団体名	一般社団法人京都わかさねっと

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	④働くことが困難な人への支援
	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	⑥地域の働く場づくりの支援
	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	・犯罪や非行傾向にある人の立ち直り支援、・若年女性のジェンダー課題解決 ・児童養護施設退所者への支援
------------------------	--

入力数 50 字

SDGsとの関連

ゴール
_5.ジェンダー平等を実現しよう
_1.貧困をなくそう
_10.人や国の不平等をなくそう
_11.住み続けられるまちづくりを
_16.平和と公正をすべての人に

実施時期	年月 ～ 年月 2021年4月～2024年3月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (京都府)	事業対象者： (助成で見込 む最終受益 者)	地域から孤立し、支援に繋がっていない少女 生きづらさを抱えた少女 ・児童養護施設入所者および退所者 ・保護観察対象者 ・定時制通信制高校生 ・大学生 ・依存症、ひきこもり等のサバイバー	事業 対象者人 数	居場所回数 120回 対象者 のべ800人
------	----------------------------	------------	---	---------------------------------	--	-----------------	--------------------------------

I. 団体の社会的役割

<p>(1)申請団体の目的</p> <p>少女たちを犯罪の被害者にも加害者にもしないために「人は人との関わりのなかでこそ立ち直ることができる」という更生保護の観点から、居場所のない少女たちを地域で支えネットワークに繋げることを目的に活動を始めました。虐待や暴力、貧困、いじめ、性的搾取等、困難な状況にある少女に繋がり、安心できる関係性なかで、回復と育ちを支え「すべての少女が自分らしく心豊かに生きる社会」を目指しています。</p>
<p>(2)申請団体の概要・事業内容等</p> <p>瀬戸内寂庵さんや村木厚子さんが発起人となり設立した「若草プロジェクト」に共感し、2016年京都府更生保護女性連盟が事業化、2018年独立しました。社会から孤立しがちな少女を支えるために、地域団体とネットワークを組み、①少女の居場所づくり（4カ所）、②寄添い支援活動をしています。また啓発事業を通して信頼できる大人を増やすことも活動のひとつです。2018-2020年京都市再犯防止モデル事業受託。</p>

入力数 (1) 190 字 (2) 199 字

II. 事業の背景・社会課題

<p>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</p> <p>格差社会、分断社会のなかで、孤立状態にある少女が増えています。彼女たちの多くは、親からの虐待、DV、いじめ、貧困、偏見、差別、性被害などを受け、それらが性的搾取や自傷、ひきこもり、依存症などにつながり、生きづらさをさらに悪化させています。とくに犯罪傾向にある少女は、加害者であると同時に被害者であることが多く、気分障害やトラウマ、リストカット等の精神面での課題に苦しんでいます。</p> <p>コロナウイルスの流行は、社会的にも不安定かつ流動的な立場にある少女たちを更なる窮地に追いやり、貧困や暴力、虐待等の被害が拡大し、望まない妊娠や若年女性の自殺者の増加が社会問題になっています。また孤立状態にある少女たちの裾野が大きく広がり、誰もが生きづらい社会となりました。行政の支援は、制度の狭間にある少女たちには届かず、また生きづらさを未然に防ぐ場もありません。</p> <p>まずは、生きづらさを抱えた少女をひとりにならないことが必要です。地域に気軽に相談し、物品等の支援を受けられる場所があり、安全・安心な場所で、「私は受け入れられている」「わたしは生きるに値する」といった密接な信頼関係を築き、継続的なかわりのできる居場所が必要です。そのなかで初めて自身を振り返り、自分らしく生きることが可能になります。それを支え、応援し、失敗に対して寛容な信頼できる関係性が地域に必要であり、それこそが、誰もが生きやすい持続可能な社会です。</p> <p>2年間の京都市再犯防止モデル事業を通して、困難な状況にある少女たちは、①学校、家庭、地域に居場所がなく公的機関や相談窓口に繋がりにくい②思春期は心身共に不安定であり長期にわたる繋がりが複合的支援が必要③児童養護施設退所者や保護観察対象者は自立までの伴走が必要である④社会に出口支援＝自己肯定感を醸成する機会がないこと。等がわかり、フォーマルな支援では対応できないことが見えてきました。</p>
--

入力数 799 字

III. 申請事業

<p>(1)申請事業の概要</p> <p>コロナ禍で若年女性の貧困、暴力被害、自殺等が社会問題になっています。生きづらさの主な原因は孤立であり、それらが悪化し依存や自殺自傷、犯罪に至ること、立ち直りには信頼できる人との出会いが大切であることが言われています。当事業は、生きづらさを抱えながらSOSを発していない少女たちの駆け込み場所を新設し、相談対応や食事等を提供するとともに、斜め上のスタッフとの良好な関係の中で少女のエンパワーメントを支えています。また多くの少女たちと繋がるため、繁華街でのアウトリーチ活動やHP、SNSでの発信を強化します。少女のあらゆる課題に対応するべく関係団体とネットワークを構築し、総合的な支援</p>
<p>入力数 300 字</p>
<p>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</p> <p>○地域のなかで少女の困ったときに気軽に相談できる居場所をつくり、「生活支援」等につながるシステムを構築し、持続可能な支援体制ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少女の緊急の支援や相談に対応する体制を作る ・少女と安心安全な関係を築くスタッフの体制ができる ・SNSやアウトリーチ活動での情報発信を行なうことで、少女と繋がるパイプをつくる ・地域内で活動することで、これらの課題を理解し信頼できる大人を増やし、地域力を高める。 <p>○犯罪や非行を防止する・社会一員として機能・貧困、虐待の連鎖を立つ</p>

入力数 236 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>【少女と繋がる】</p> <p>受け皿となる「居場所」の新設 活動内容の戦略的広報</p> <p>【少女と寄添う】</p> <p>寄添い支援 専門家相談</p> <p>【支援者を育てる】</p> <p>支援者の確保と育成 OG、学生等の若い支援者の育成</p>	<p>居場所の構想～計画～運営 開所回数、アウトリーチ回数 参加者数（来場者、スタッフ） 発信回数（SNS等） 寄添い支援時間 広報紙発行回数 少女、スタッフの意識の変化</p>	<p>企画運営会議議事録 実施回数のカウント 開催報告書 アンケート、聞き取り</p>	<p>わかさカフェの新設</p> <p>専門家相談ワーク等週2回 SNS週2回、リーフレット作成</p> <p>寄添い支援年12人 HPの改築 ショップカード作成 広報紙 年2回、SNS1～2回/週</p> <p>支援者の振り返りと研修</p>	<p>2021.6内容決定 8月オープン 8月～毎月 リーフレット8月</p> <p>2022. 2 2021.6～ 2021.8 広報紙8月、2月</p>
(4)活動			時期	
<p>【少女とつながる】</p> <p>(1) 受け皿となる居場所の新設 -困難な状況にいる少女とつながり関係性を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容…気軽に訪れることのできる居場所の提供、食事・生活用品の提供。相談窓口。専門家相談。 ・場所…現在、選定中 <p>(2) 活動内容の戦略的広報 支援に繋がっていない少女に情報を届ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容…発信者、発信内容を戦略的に企画しSNS等で発信する。外部の支援機関・公的機関等との連携 ・連携先・外部の公的機関（青少年サポートセンター、警察、児相、支援学校等） 			<p>6月場所および基本構想 7月運営内容決定、契約・工事等 8月オープン</p> <p>8月～SNS週2回、リーフレット作成</p>	

<p>【少女に寄り添う】</p> <p>(1) 寄り添い支援</p> <p>内容…一人一人の課題に個別に向き合い、日常的な暮らしの伴走を通して自立を促す</p> <p>状況に応じて、弁護士への相談、児童相談所・病院・役所・警察・学校などへの同行支援や他機関との連携等、必要な支援を実施</p>	<p>活動中～ 年12人程度</p> <p>8月～専門家とのネットワーク構築</p>
<p>【支援者を育てる】</p> <p>(1) 支援者の確保と育成</p> <p>内容…活動を周知・啓発し、支援者を増やす</p> <p>広報誌の発行、SNSでの活動内容の発信、講演会や研修会等の開催</p> <p>(2) OGや学生等の若い支援者の育成</p> <p>内容…若い世代の支援者が主体となるよう、目的や課題を共有し、話し合いの中から問題解決をするしくみをつくる</p> <p>支援者自身が、良きメンターとなるよう、スタッフの能力開発や夢の実現のための寄り添いにつとめる</p>	<p>広報紙（年2回）、 SNS（週1～2回）、</p> <p>居場所終了後のミーティング 隔週1回オンライン会議（10月までは毎週） 研修参加等</p>

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・本部 齋藤（総括）、新川（居場所）、安保（寄り添い支援） ・事務局 北川（事業の取りまとめ・広報）、常田（会計）、渡部（企画・渉外・居場所運営）、久留宮（経理） ・寄添支援 林、木村、今井（スーパーバイザー）、渡部（保護観察まとめ）、北川（児童養護施設、アフターケア）、宇野（里親・南地区担当）、二宮（発達障害、不登校）、北川（医師） ・居場所 加藤（現場運営管理）、小西（調理、ワーク担当）、塩谷（アドバイザー） ・出口支援 中村、田中（キャリアコンサルタント）、佐藤（心理）、奥野（就労支援）、NINIROOM（大東、西濱） ・広報 土谷（主・HP管理、広報紙制作）、（SNS）、井上（少女チーム・SNSを主） ・少女チーム（大学生）矢野、他8名、（アフターケア）井上他8名、（当事者）塩谷 他4名 ・外部アドバイザー…加藤（SSW）、西原（大阪保護観察所）、志藤（大谷大学）、朝田（京都府立大学） ・伴走支援者 仁藤夢乃（Colabo）
(2)他団体との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ連携…hostelNINIROOM、happiness*café、自立援助ホームカルーナ、亀岡地区更生保護女性会 ・支援団体等…京都マック、バザールカフェ、sacula、DXP、ココリエラボ、京都しゃばねっと、山科醍醐こどものひろば、セカンドチャンス！、アフターケアの会メヌエット、児童養護施設和敬学園 ・京都市…京都市総合企画局総合政策室「まちづくりお宝バンク」、家庭支援課（少女居場所）、子ども若者はぐみ局(こども食堂)、南区地域推進室(わかさカフェ)、男女共同参画センター、上京区社会福祉協議会、ユースサービス協会 ・京都府…地域力再生プロジェクト ・京都保護観察所、交野女子学院（有志）、京都医療少年院（有志） ・模索中…京都府少年サポートセンター、児童相談所、他の養護施設、ウイメンズカウンセリング京都
(3)想定されるリスクと管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所での集団感染…孤立支援のため居場所の開放は必要だが最低限の人数での実施 対応…アルコール消毒、マスク、検温の徹底。来場者名簿の作成、その場での調理をやめ弁当支給、18時までには解散、緊急避難時はイベント、ワークはやめる。 SNS等、オンラインでの居場所の移行

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
①コロナウイルス感染症に係る事業			
本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している(予定も含む)	有	無	有の場合 その詳細
本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	無	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績			
<p>京都市地域再犯防止推進モデル委託事業（調査）</p> <p>京都市域の少女および若年女性に関する矯正施設のヒアリング調査・当事者インタビュー（矯正施設に入所中の当事者に対する聞き取り／地域の支援者に対する聞き取り）</p> <p>京都市地域再犯防止推進モデル委託事業（モデル支援）において</p> <p>京都市、京都保護観察所、各地区保護司会、少年院、弁護士会、依存症回復施設、夜間定時制高校、龍谷大学等と連携した。</p> <p>日本更生保護学会 2019、2020年活動発表</p>			